

50001

教職論（他学科用）

S / W 塩見能和

⑩教職論（他学科用）

〔授業題目〕 教職の意義及び教員の役割

〔概要〕 この科目では、教員を志望する受講者が各自の教育理念を確立し、教職の意義や教員の役割および職務内容に関する知識を修得することを通じ、あるべき教員像を明確にすることにより、教職を選択することの可否の判断に資すること、および教員としての資質能力の基礎を形成することを目指す。内容として、教職の本質、教職員の種類と資格、教職観、求められる資質能力、教員の人事、研修、勤務条件をとりあげ、学校ボランティアなどの各種の機会について情報提供をし、受講者が進路について熟慮することを求める。授業形式は、講義を基本とするが、一方的な知識伝達のみでなく、主体的に学習を進める意欲を喚起するために、小グループによるレポート提出を求める。

〔到達目標〕 ・教職員に関する法令等の規定や文献等を通じ、教職員に対する社会の要請（求められる資質能力、教職観）を把握し、教職の意義および教員の役割を理解する。 ・法令等の規定を理解し、教員の研修や服務、身分保障の特殊性を把握し、教員の職務内容を理解する。 ・学校ボランティアなどについての情報を収集・整理し、教育実習に参加するまでの活動計画を確立する。

〔授業計画〕

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 1 教職を考察することの意義                      | 9 教員の研修 研修の義務と機会・特例                              |
| 2 教職観 人々が教師をどう見ているか                 | 10 教員の身分保障（1） 分限・懲戒の規定                           |
| 3 求められる教師の資質能力（1） 普遍的に求められる資質能力（不易） | 11 教員の身分保障（2） 勤務条件と職員団体                          |
| 4 求められる教師の資質能力（2） 現在求められる資質能力       | 12 適性を考える（2） 教員にふさわしい能力を育てるために学生のうちにすべきこと        |
| 5 適性を考える（1） 相互批評による長所と短所の自覚         | 13 適性を考える（3） 教員（卒業生）・学校ボランティア（上級生）体験談・ボランティア参加手順 |
| 6 教職員の種類と資格（1） 教職員の資格と免許状           | 14 どのような教師を目指すのか 教職への意思の確認と以降の活動計画の作成            |
| 7 教職員の種類と資格（2） 新しい職種と役割             | 15 定期試験  |
| 8 教員の人事 任命・監督と給与負担                  |  |

〔テキスト〕 林勲・田原恭蔵編、『教育概論』、法律文化社

〔参考文献〕 赤尾勝己他「教育データブック」（時事通信社）、浪本勝年他、「ハンディ教育六法」（北樹出版）

〔授業形態〕 講義・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

50002

教育原論（他学科用）

W 碓井岑夫

⑩教育原論

〔概要〕 「ヒトは教育によって人間となる」といわれる。他の高等哺乳動物よりもはるかに未熟で無力に生まれるヒトの子が、二足歩行を身に付け、言語を話し、更にはもろもろの非言語的コミュニケーションをも行なえるよう成長するのであるが、それにはどのようなプロセスを経ることが必要なのであろうか。人間の発達・成長・学習の事実を取り上げ、一生物種としてのヒトを真に人間らしい存在に高める「教育」の本質とは何かを、社会や文化の発展との関係も視野に入れつつ考究したい。更に、人間にふさわしい発達・成長を実現するために構想されてきた教育の思想・内容・方法を具体的に検討し、今日の学校教育をめぐる諸問題を、社会的・歴史的・教育学的な視点から講義する。小学校教諭、中・高等学校教諭・養護教諭のそれぞれの立場における留意点を含めて論じる。

〔到達目標〕 学校教員を目指す学生に、さしあたり教育（学）全般についておおまかに解説し、今後それぞれの分野を深めて行くための準備と展望を与えると同時に、教育とはそもそも何であるのかという最も基本的かつ重要な問題を詳しく論じると同時に学生自身にも深く考えさせる。更に、学校教育の発展の後をたどり、学校教育のなしうること、達成してきたことと、困難なことについても考えさせる。

〔授業計画〕

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 1 オリエンテーション   | 6 日本の近代化と学校   | 11 生活指導の実践と原則 |
| 2 教育とは何か（1）   | 7 現代の子どもと学校教育 | 12 生涯学習社会と学校  |
| 3 教育とは何か（2）   | 8 教育権の思想      | 13 現代社会と家庭、地域 |
| 4 人間の発達と教育・学習 | 9 教育課程        | 14 教師の仕事      |
| 5 近代学校の歴史     | 10 教育内容と方法    | 15 定期試験       |

〔テキスト〕 『キーワードで読む教育学』、田原恭蔵・林勲編、法律文化社（碓井）

〔参考文献〕 授業中に指示

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、ミニレポート等平常点 40 %

50002

**教育原論（他学科用）**

W 塩見能和

⑩教育原論（他学科用）

〔授業題目〕 教育の理論と実践の場である学校

〔概要〕 人間の成長や学習の過程を概観し、教育の本質・使命とは何かを社会の変化も視野に入れ考究する。そのためにもこれまでの教育の思想・内容・方法を検討し、これからの教職員の在り方を論じる。

〔到達目標〕 教育の本質の理論的・実践的な理解と、学校で行われている諸活動の目標と知識・意味、方法的技術の基礎を習得する。

〔授業計画〕

- |               |               |                 |
|---------------|---------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション   | 6 日本の近代化と学校   | 11 生活指導の実践と原則   |
| 2 教育とは何か（1）   | 7 現代の子どもと学校教育 | 12 生涯学習社会と学校    |
| 3 教育とは何か（2）   | 8 教育権の思想      | 13 現代社会と家庭、地域社会 |
| 4 人間の発達と教育・学習 | 9 教育課程        | 14 教師の仕事        |
| 5 近代学校の歴史     | 10 教育内容と方法    | 15 定期試験         |

〔テキスト〕 林勲・田原恭蔵 編、『キーワードで読む教育学』、法律文化社

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、ミニレポート等平常点 40 %

50003

**教育心理学（他学科用）**

W 上野淳子

⑩教育心理学（他学科用）

〔授業題目〕 教育と学習の心理プロセス

〔概要〕 教育心理学の観点から、知能ややる気などについて様々な理論を概説し、よりよい教育とは何かを考察する。いじめなど教育現場が抱える問題や、発達障害児の実態と支援の方法も検討する。

〔到達目標〕 ①知能の理解。②学級集団のメカニズムの理解。③やる気を高める指導法・評価法の考察。④児童・生徒の問題と支援についての考察。

〔授業計画〕

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1 教育心理学とは         | 9 教育の目標とカリキュラム |
| 2 知能の仕組みと決定要因     | 10 教育の評価       |
| 3 社会的知能と学校教育      | 11 いじめと不登校     |
| 4 学級集団            | 12 問題行動と対策     |
| 5 教師の生徒認知とその影響    | 13 発達障害        |
| 6 外発的動機づけと内発的動機づけ | 14 特別支援教育      |
| 7 対人関係と動機づけ       | 15 定期試験        |
| 8 動機づけと原因帰属       |                |

〔テキスト〕 八木成和・本郷一夫編著『シードブック 教育心理学』（建帛社）

〔参考文献〕 適宜資料を配布する。

〔授業形態〕 講義・実習・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点（小テスト） 30 %

50003

⑩教育心理学（他学科用）

S 石上浩美

〔授業題目〕 教育について心理学的に考える

〔概要〕 心理学の観点から、生徒にとってよりよい教育とは何かについて考察する。発達・学習・動機づけ・知能などの基礎的内容から、授業の構築・学級経営、生徒が抱える問題など発展的内容まで扱う。

〔到達目標〕 1. 人間の発達について理解する。2. 発達を促す教育的働きかけの基礎となる理論を理解する。3. 生徒が抱える問題の理解と援助法について考察する。

〔授業計画〕

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1 教育心理学とは何か | 9 パーソナリティと適応        |
| 2 教育と発達     | 10 学級集団             |
| 3 学習の原理     | 11 不登校・いじめ・暴力行為     |
| 4 意欲と動機づけ   | 12 発達障害を持つ子どもの理解と対応 |
| 5 知能と学力     | 13 これからの特別支援教育      |
| 6 教授—学習過程   | 14 教育相談の進め方         |
| 7 教育評価      | 15 定期試験             |
| 8 教育測定と統計   |                     |

〔テキスト〕 本郷一夫・八木成和著『シードブック 教育心理学』（建帛社）

〔参考文献〕 適宜資料を配布する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

50004

教育制度論（他学科用）

S / W 林 勲 植田義幸

⑩教育制度論（他学科用）

〔授業題目〕 教育制度の意義と課題

〔概要〕 この科目では、公教育が制度に裏付けられた教育であることを踏まえ、わが国の教育制度について受講者が基本的な知識を獲得することを目標とする。内容として、学校制度、義務教育制度、社会教育制度、教育行財政制度を取り上げる。特に、最近の教育改革動向について、政策文書などを参照して言及する。授業形式は、講義形式を基本とするが、一方向的な知識伝達のみでなく、主体的に学習を進める意欲を喚起するために、小グループによるレポート提出を求める。担当者は、林、植田の2名であるが、それぞれが異なるクラスについて、学期を通じて担当する。共通のテキストを使用し、内容は共通している。

〔到達目標〕 ・学校制度について、歴史的な発展を踏まえ、典型的な構造があることを理解し、わが国の学校制度の特徴と改革動向を理解する。・義務教育の基本理念を知り、制度上の問題点を理解する。・社会教育制度の概要を理解する。・教育行政の理念および原則と制度の概要を知り、現在の問題と改革動向を理解する。

〔授業計画〕

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1 教育制度研究の意義      | 9 戦後教育行政の原則と変遷       |
| 2 学校制度の構造と歴史     | 10 中央教育行政の組織と役割      |
| 3 わが国の学校制度の特徴    | 11 地方教育行政の組織と役割      |
| 4 学校制度改革の動向と課題   | 12 中央と地方、都道府県と市町村の関係 |
| 5 義務教育制度の意義      | 13 教育財政制度の役割と問題点     |
| 6 わが国の義務教育制度と問題点 | 14 教育行財政制度改革の動向と課題   |
| 7 社会教育制度の概要      | 15 定期試験              |
| 8 教育行政の理念・原則     |                      |

〔テキスト〕 田原恭三・林勲編著『教育概論（4訂版）』（法律文化社）

〔参考文献〕 赤尾勝己他『教育データブック』（時事通信社）

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

50005

教育課程総論（他学科用）

W 碓井岑夫

〔概要〕 学校教育は目標や価値の実現を目指した意識的・目的的な活動である。その目標に即して子ども・青年を教授・学習指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的・体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方を具体的に考える。小学校教諭、中・高等学校教諭、養護教諭のそれぞれの立場における留意点を含めて論じる。

〔到達目標〕 学校教育で取り上げる教育内容の選択の仕方と教育課程としての編成の仕方について、理論的に理解を深めると同時に、自らも編成する能力を養う。学習指導要領についての理解を深め、重要なポイントを押さえて学習を指導できるようにする。

〔授業計画〕

- |               |                           |
|---------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション   | 9 学習指導要領と教科書              |
| 2 教育課程とは何か    | 10 教科書と授業                 |
| 3 現代の学校と教育課程  | 11 総合的な学習の時間              |
| 4 教育課程の編成主体   | 12 開かれた学校、教育課程            |
| 5 教育課程の構成と類型  | 13 教育課程と学力問題              |
| 6 教育課程の歴史と理論  | 14 ヒドゥンカリキュラム論、クロスカリキュラム論 |
| 7 教育課程と学習指導要領 | 15 定期試験                   |
| 8 学習指導要領と教科書  |                           |

〔テキスト〕 田原恭蔵・林勲編『キーワードで読む教育学』（法律文化社）

〔参考文献〕 授業で指示

〔授業形態〕 講義・演習・対話・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、ミニレポート等平常点 40%

50045

道徳教育の研究（他学科用）

S 塩見能和

㊦道徳教育の研究（他学科用）

〔授業題目〕 道徳教育の指導法

〔概要〕 学校の道徳教育は全教育活動を通じて行うものである。そのためには心に響く教材の開発を行い、家庭や地域社会との連携や体験も重視して道徳性の育成を図らなければならない。その方策を考える。

〔到達目標〕 道徳教育の意義と必要性を理解し、学校における道徳教育の実践力をつける。

〔授業計画〕

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 道徳教育は社会の変化の激しい中での「生きる力」を育む核である。道徳の概念を明らかにし、道徳教育の必要性について考える。</p> <p>2 いじめ不登校等、現在の学校における人間関係や、子どもの実態について考察する。</p> <p>3 道徳教育を考えるに当たって、道徳教育の歴史について考察することは欠かせない。時代背景と道徳教育の流れについて学習する。</p> <p>4 道徳教育は全ての教育活動の中で行われなければならない。学習指導要領全体の体系を明らかにしながら、道徳教育の位置について考察する。</p> <p>5 道徳教育の全体計画、年間計画の立て方について学習し、具体的な場面を例示しながら、道徳の時間における「補充・深化・統合」の意義について考える。</p> <p>6 学習指導要領における「道徳の内容」の4つの視点について、児童生徒の発達段階を考慮しながら考察する。</p> <p>7 道徳教育を進めるために必要な資料や教材の種類とその内容について、実践事例もまじえて学習する。</p> <p>8 「心のノート」の作成過程やその内容について</p> | <p>学習し、児童生徒の発達段階や実態に合わせた活用方法について、活用事例をもとに考える。</p> <p>9 道徳の時間の指導案について必要項目とその主旨について学習し、実際の作成の演習をする。</p> <p>10 指導案にもとづいて道徳の授業の展開の学習をする。①</p> <p>11 指導案にもとづいて道徳の授業の展開の学習をする。②（ビデオ等も視聴する）</p> <p>12 他の教科の評価と道徳教育の評価の違いを考え、励ましや賞賛、反省や児童生徒同士の相互評価等、道徳教育の評価の実際の方法について学習する。</p> <p>13 キリスト教を中心とした西欧諸国の道徳教育と儒教やイスラム教、伝統文化等を中心とした東洋諸国の道徳教育の特色について考える。</p> <p>14 これからの道徳教育は家庭や地域社会との連携が欠かせない。ボランティア活動や地域活動、自然体験の事例を学習し、さらに地域の人々が参加した道徳の時間の在り方についても考える。</p> <p>15 定期試験</p> |
|---|---|

〔テキスト〕 プリント配布、文部科学省、『学習指導要領「道徳」解説書』、東洋館出版

〔参考文献〕 宇井治郎、吉澤良保 編 「人間理解と道徳教育」

〔授業形態〕 講義・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、ミニレポート等平常点 30 %

**50046**

**特別活動の研究（他学科用）**

W 中園大三郎

⑩**特別活動の研究（他学科用）**

〔授業題目〕豊かな人間性を育む特別活動研究

〔概要〕特別活動の基本的な考え方と内容等について解説し、望ましい集団活動を通して、よりよい生活や人間関係を築く自主的、実践的な態度を育て、自己を生かす能力を養う指導法を考察する。

〔到達目標〕・特別活動の意義、内容、指導法等について理解する。・生徒、学校の状況や最近の教育問題から、特別活動への期待や役割等について理解する。

〔授業計画〕

- |                                   |                         |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 1 教育課程における特別活動の位置づけ、自らの特別活動を振り返る  | 8 生徒会活動（1）特質・内容、指導計画    |
| 2 特別活動の変遷、生徒達の現状と特別活動             | 9 生徒会活動（2）組織、指導上の留意点    |
| 3 特別活動に関わる指導理論                    | 10 学校行事（1）特質・内容、指導計画    |
| 4 特別活動の意義、全体指導計画の作成               | 11 学校行事（2）指導上の留意点       |
| 5 学級活動・ホームルーム活動（1）特質・内容・指導計画      | 12 クラブ活動・部活動 経緯、指導上の留意点 |
| 6 学級活動・ホームルーム活動（2）学習指導案作成（話し合い活動） | 13 特別活動の指導原理の基本、特別活動の評価 |
| 7 学級活動・ホームルーム活動（3）模擬「話し合い活動」演習    | 14 特別活動と他の教育内容との関連、まとめ  |
|                                   | 15 定期試験                 |

〔テキスト〕文部科学省編『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい 平成20年9月）

〔参考文献〕

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論・PC、OHC等使用

〔成績評価の方法〕定期試験60%、平常点40%

**50047**

**生徒指導論（進路指導を含む）（他学科用）**

W 奥 始

⑩**生徒指導論（進路指導含む）（他学科用）**

〔授業題目〕生徒指導の意義と課題

〔概要〕生徒指導の意義と目的、生徒指導の原理、生徒指導の組織、生徒理解、教育相談、進路指導など生徒指導・進路指導の基礎的・基本的事項について講述するとともに、“いじめ”・不登校、懲戒と体罰など生徒指導上の諸問題を取り上げ、研究協議を行う。

〔到達目標〕生徒指導は積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活が有意義に興味深く、充実したものになるようにすることを目指す総合的な活動であることを理解し、実践できるようにすること。

〔授業計画〕

- |              |             |            |
|--------------|-------------|------------|
| 1 生徒指導の意義と歴史 | 6 児童生徒理解    | 11 出席停止    |
| 2 生徒指導の目的    | 7 教育相談      | 12 “いじめ”   |
| 3 生徒指導の原理    | 8 進路指導      | 13 不登校     |
| 4 生徒指導の組織と職務 | 9 懲戒の種類と手続き | 14 生徒指導の課題 |
| 5 規律指導       | 10 体罰の禁止    | 15 定期試験    |

〔テキスト〕林勲編著『教育の原理（2訂版）』（法律文化社）

〔参考文献〕文部省『生徒指導の手引（改訂版）』

〔授業形態〕講義・発表

〔成績評価の方法〕定期試験90%、平常点10%

50048

教育相談の理論と方法（他学科用）

W 栃尾順子

⑩スクールカウンセリング（他学科用）

〔授業題目〕 学校におけるカウンセラーの役割

〔概要〕 スクールカウンセリングの制度・社会的背景を概観するとともに、教育現場における児童・生徒の具体的な問題を通して、スクールカウンセリングの実際について講義をすすめる。

〔到達目標〕 カウンセリングや臨床心理学の基礎的な知識を身につけ、子どもたちを理解し、教育の場面で活用することができることを目標にする。

〔授業計画〕

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 1 スクールカウンセリングの現状        | コミュニケーション・面接態度                               |
| 2 スクールカウンセラーの役割         | 11 カウンセリングの理論と技法―②来談者中心のカウンセリング③精神分析的カウンセリング |
| 3 学校におけるカウンセリングの特徴      | 12 カウンセリングの理論と技法―④行動療法的カウンセリング⑤グループカウンセリング   |
| 4 学校カウンセリングにおける連携       | 13 カウンセリングの理論と技法―⑥ペアレントトレーニング⑦ピアカウンセリング      |
| 5 臨床的問題<非行>             | 14 関連諸機関                                     |
| 6 臨床的問題<不登校>            | 15 まとめ・定期試験                                  |
| 7 臨床的問題<いじめ>            |  |
| 8 臨床的問題<発達障害>           |  |
| 9 カウンセリングと心理テストの活用      |  |
| 10 カウンセリングの理論と技法―①非言語的コ |  |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

50049

総合演習（3人ローテーション）（他学科用）S

山本誠 石上浩美 松岡 弘

⑩総合演習（3人ローテーション）（他学科用）

〔概要〕 人類に共通する問題やわが国の社会全体に関わる問題をめぐって、教育学や心理学、文化人類学などの立場から、それぞれ専門を異にする3人の教員がローテーション形式にて授業を担当する。

〔到達目標〕 3人の教員が提供する多様な問題を検討していく中で、児童生徒たちを広い視野のもとで指導できるような知性を身につけていただきたい。

〔授業計画〕

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション 松岡・石上・山本 | 9 異文化を知る（2） 山本     |
| 2 性・エイズ教育指導の方法（1） 松岡 | 10 人間の思考 石上        |
| 3 性・エイズ教育指導の方法（2） 松岡 | 11 思考のエラー 石上       |
| 4 安全教育の方法（1） 松岡      | 12 批判的思考（1） 石上     |
| 5 安全教育の方法（2） 松岡      | 13 批判的思考（2） 石上     |
| 6 異文化への誘い（いざない） 山本   | 14 まとめ（1） 松岡・石上・山本 |
| 7 異文化への構え方 山本        | 15 まとめ（2） 松岡・石上・山本 |
| 8 異文化を知る（1） 山本       |                    |

〔テキスト〕 プリント類中心。文献については適宜指導する。

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 50 点、平常点 50 点など、各教員の合計による。

50049

総合演習（3人ローテーション）（他学科用）W 城江良和 石上浩美 松岡 弘

㊦総合演習（3人ローテーション）（他学科用）

〔授業題目〕心と体

〔概要〕教員として知っておくべき心と体の問題について、哲学、保健教育、心理学の分野から授業をおこなう。3人の教員がそれぞれの主題により、4週ずつ交替で担当する。教員の担当順はクラスにより異なる。

〔到達目標〕3人の教員から提供される課題について受講者各自が考えを深めることによって、生徒指導に必要な知性と感性を養う。

〔授業計画〕

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション 城江、松岡、大西  | 9 安全教育の方法（2） 松岡    |
| 2 教育者としてのソクラテス（1） 城江  | 10 人間の思考 大西        |
| 3 教育者としてのソクラテス（2） 城江  | 11 思考のエラー 大西       |
| 4 ソクラテスの死が教えるもの（1） 城江 | 12 批判的思考（1） 大西     |
| 5 ソクラテスの死が教えるもの（2） 城江 | 13 批判的思考（2） 大西     |
| 6 性・エイズ教育指導の方法（1） 松岡  | 14 まとめ（1） 城江、松岡、大西 |
| 7 性・エイズ教育指導の方法（2） 松岡  | 15 まとめ（2） 城江、松岡、大西 |
| 8 安全教育の方法（1） 松岡       |                    |

〔テキスト〕プリント配布

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験に代わる各担当教員のレポート おおむね50%、平常点50%

50505

㊦教育の方法・技術（教育課程の意義及び編成の方法含む）（他学科用）S 谷口政己

〔授業題目〕教育現場で使える方法と技術

〔概要〕教育の目標や理念は、教育課程によって構造化され、具体的な方法・技術によって実現される。本講義ではワークシートを利用して、教育方法・技術に関する基本的な知識を講義・演習する。

〔到達目標〕ワークシートで示された知識および技術を理解し、それらを学校現場で活用するための基礎的な技術を習得する。

〔授業計画〕

- |   |   |
|---|---|
| 1 オリエンテーション。全体の講義の内容と進め方および評価について説明。        | 9 発問と板書の技術。発問と板書に関する総合的な技術とその理解。          |
| 2 教育内容と方法・技術。教育内容と方法・技術の概念規定と相互の関係。         | 10 系統学習と経験学習。2つの典型的な学習論と教育方法・技術との関係を分析。   |
| 3 教育技術とはなにか。学校や教室で使われる教育技術の内容を紹介。           | 11 授業研究の方法。学校で授業研究を行う場合の視点やねらいの研究。        |
| 4 教授と学習過程。授業は教授活動と学習活動を含むので、その具体的過程の分析。     | 12 教育内容（1）—入門期の国語指導。教育内容と方法・技術の関係を具体的に分析。 |
| 5 教授＝学習過程の理論。教材を使いながら2つの過程の役割を講義。           | 13 教育内容（2）—入門期の算数指導。教育内容と方法・技術の関係を具体的に分析。 |
| 6 授業の理論と実際。VTRで実際の授業を分析しながら、授業の枠組みから教材研究まで。 | 14 情報機器と授業。学校現場で用いられている情報機器の種類、使用方法、効果など。 |
| 7 教材選択と授業研究。国語教材を使って教材選択、分析を経て、学習指導案へ。      | 15 教育評価。学校で使用されている教育評価の方法と技術。             |
| 8 授業と教具としての視聴覚機器。教室で用い                      |   |

〔テキスト〕

〔参考文献〕林勲ほか編『キーワードで読む教育学』（法律文化社）その他

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験（60%）、ワークシート・課題の提出、平常点（40%）

### 50511

#### ㊤教科教育法Ⅰ（国語） S 早川勝廣

〔授業題目〕 国語科教育の理論と実践

〔概要〕 中学校・高等学校の国語科教育の全体を見通し、目標・内容・方法・評価について理解する。教材研究の方法を習得し、授業計画する方途を学ぶ。

〔到達目標〕 学習内容を展開できる教材研究ができる。生徒の国語能力形成の課題を想定し、確かな授業が創造できる力を身につける。

〔授業計画〕

- |               |                 |                |
|---------------|-----------------|----------------|
| 1 国語教育と国語科教育  | 6 文学教材の研究（3）    | 11 音声言語の指導     |
| 2 国語科教育の構造    | 7 説明・評論教材の研究（1） | 12 学習指導案の作成（1） |
| 3 国語科の基本的指導過程 | 8 説明・評論教材の研究（2） | 13 学習指導案の作成（2） |
| 4 文学教材の研究（1）  | 9 文章表現指導の方法（1）  | 14 指導と評価の関係    |
| 5 文学教材の研究（2）  | 10 文章表現指導の方法（2） | 15 定期試験        |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中にプリント配布

〔授業形態〕 講義・演習・双方向授業・ワーク

〔成績評価の方法〕 平常点 30 %、課題 30 %、テスト 40 %

### 50512

#### ㊤教科教育法Ⅱ（国語）（2人でリレー） W 矢羽野隆男 源 健一郎

〔授業題目〕 高校国語の古文・漢文

〔概要〕 高校国語における古文・漢文教材の指導計画案を作成し、模擬授業と相互批評の実践に取り組む。  
なお、毎回の授業終了時に小レポートを課し、学期末には、古文・漢文の文法的知識を問う試験を行う。

〔到達目標〕 教育実習に参加する上で必要とされる国語授業の技術を修得すること。

〔授業計画〕

- |              |            |           |
|--------------|------------|-----------|
| 1 指導計画の立案    | 6 古文（敬語表現） | 11 漢文（史伝） |
| 2 古文（初めての古典） | 7 古文（総合）   | 12 漢文（詩）  |
| 3 古文（動詞）     | 8 古文（総合）   | 13 漢文（詩）  |
| 4 古文（形容詞）    | 9 漢文（故事成語） | 14 漢文（思想） |
| 5 古文（形容動詞）   | 10 漢文（史伝）  | 15 定期試験   |

〔テキスト〕 プリント配布、適宜指示

〔参考文献〕 講義中に適宜指示

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 30 %、実習 50 %、小レポート等の平常成績 20 %

### 50514

#### ㊤教科教育法Ⅲ（国語） S 船所武志

〔概要〕 国語科教育の理論と実践の両面から必要な知識と技術とを学ぶ。具体的には、中学校の1・2年生用教科書を用いて、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。生徒の「国語力」育成のために、積極的な参加と活発な討論を期待する。

〔到達目標〕 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業を通して、国語についての教育力を身につける。

〔授業計画〕

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 1 中学校の国語科教育概説 | 6 学習指導案の作成②   | 11 教材研究と模擬授業⑤ |
| 2 「国語力」について   | 7 教材研究と模擬授業①  | 12 教材研究と模擬授業⑥ |
| 3 文学教材の研究     | 8 教材研究と模擬授業②  | 13 教材研究と模擬授業⑦ |
| 4 説明・評論教材の研究  | 9 教材研究と模擬授業③  | 14 まとめ        |
| 5 学習指導案の作成①   | 10 教材研究と模擬授業④ |               |

〔テキスト〕 野地潤家・湊吉正編 『中学校・高等学校国語科教育法』（おうふう）

中学校 国語科教科書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60 %、平常点（発表・討論等） 40 %

**50515**

**㊤教科教育法Ⅳ（国語）**

W 源健一郎

〔授業題目〕 現代文授業の展開

〔概要〕 高等学校国語における現代文の授業内容も視野に入れつつ、中学国語における現代文教材を中心に指導計画案を作成し、模擬授業と相互批評の実践に取り組む。

〔到達目標〕 教育実習に参加する上で必要とされる国語授業の技術を修得する。

〔授業計画〕

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 授業オリエンテーション      | 9 高校現代文（小説）の授業方法    |
| 2 中学国語（論説）の授業方法（1） | 10 中学国語（随筆）の授業方法（1） |
| 3 中学国語（論説）の授業方法（2） | 11 中学国語（随筆）の授業方法（2） |
| 4 中学国語（論説）の授業方法（3） | 12 中学国語（随筆）の授業方法（3） |
| 5 高校現代文（論説）の授業方法   | 13 高校現代文（随筆）の授業方法   |
| 6 中学国語（小説）の授業方法（1） | 14 中学国語（詩歌）の授業方法（1） |
| 7 中学国語（小説）の授業方法（2） | 15 中学国語（詩歌）の授業方法（2） |
| 8 中学国語（小説）の授業方法（3） |                     |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 実習 50 %、小レポート等の平常成績 50 %

**50516**

**㊤教科教育法Ⅰ（書道）**

S 庄司克子

〔概要〕 臨書を形臨から意臨・倣書にまで発展、他の人の作品を添作することによって、作品の批評力を養う。

〔到達目標〕 高等学校 芸術科書道の目標を把握するレポートによって教材研究を深める。

〔授業計画〕

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 高等学校芸術科書道の目標、内容の取り扱い | 8 隷書の教材研究       |
| 2 楷書の教材研究              | 9 隷書の教材研究       |
| 3 楷書の教材研究              | 10 篆書の教材研究      |
| 4 行書の教材研究              | 11 篆書の教材研究      |
| 5 行書の教材研究              | 12 仮名の教材研究      |
| 6 草書の教材研究              | 13 仮名の教材研究      |
| 7 草書の教材研究              | 14 漢字仮名まじりの書の創作 |

〔テキスト〕 村上三島 他著 『高校書道Ⅰ・Ⅱ』 大阪書籍

〔参考文献〕 『中国法書選』（二玄社）

〔授業形態〕 講義・演習・実習

〔成績評価の方法〕 実習 45 %、レポート 15 %、提出物 40 %

**50517**

**㊤教科教育法Ⅱ（書道）**

W 庄司克子

〔概要〕 高等学校芸術科書道の目標・内容の取り扱いを理解し、多様な書表現を経験することによって、創作の楽しさ、他の人の作品への観賞力を身につける。

〔到達目標〕 高等学校 芸術科書道の目標を把握するレポートによって教材研究を深める。

〔授業計画〕

- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 高等学校芸術科書道の目標・内容の取り扱いについて | 7 自分の作った料紙に仮名の散らし書作品創作  |
| 2 用具用材の変化による作品の変化を体験する。    | 8 同上                    |
| 墨                          | 9 顔彩を併用した漢字仮名交じりの作品創作   |
| 3 〃 紙                      | 10 〃                    |
| 4 〃 筆                      | 11 表具の練習 自作の作品の裏打ちを体験する |
| 5 〃 異素材（うちわ、木材）            | 12 画仙紙への自由作品制作          |
|                            | 13 〃                    |
|                            | 14 作品批評会                |
| 6 墨流しによる料紙製作               |                         |

〔テキスト〕 村上三島 他著 『高校書道ⅠⅡ』 大阪書籍

〔参考文献〕 高等学校学習指導要領

〔授業形態〕 講義・演習・実習

〔成績評価の方法〕 実習 45 %、レポート 15 %、提出物 40 %

**50518**

**㊤教科教育法Ⅰ（英語）** S 三好康子

〔授業題目〕英語教育の基本的考え方  
 〔概要〕英語教育を理論と実践の両面から捉え、中学高校の英語教師に必要な知識を学ぶ。英語教育学のうち特に言語学的領域について、指導要領と関連させながら、知識の強化をはかり、教室における実践にも対応できるものにする。なお、併行して教員採用試験問題の演習も行う。  
 〔到達目標〕英語教育についての全般的理解と、新しい世界の潮流と日本の英語教育論争を通じて、英語教育に対する考え方の基礎を作る。  
 〔授業計画〕

1 英語教育と英語教育学	6 学習指導要領	11 言語習得と英語教育Ⅰ
2 日本の英語教育史Ⅰ	7 学習者と英語教員	12 言語習得と英語教育Ⅱ
3 日本の英語教育史Ⅱ	8 早期英語教育	13 英語教授法Ⅰ
4 異文化理解と英語教育	9 EUの早期英語教育	14 英語教授法Ⅱ
5 学習指導要領	10 EUのCLIL（統合教育）	15 定期試験

〔テキスト〕望月昭彦他『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）、『中学校学習指導要領解説—外国語編』（開隆堂）、『高等学校学習指導要領解説—外国語編』（開隆堂）  
 〔参考文献〕大谷泰照他『社会人のための英語百科』（大修館書店）、大谷泰照『日本人にとって英語とは何か』（大修館書店）、齊藤兆史『日本人と英語』（研究社）  
 〔授業形態〕講義・演習・発表・討論・AV機器使用  
 〔成績評価の方法〕定期試験60%、出席平常点40%

**50519**

**㊤教科教育法Ⅱ（英語）** W 三好康子

〔授業題目〕高等学校英語教育の理論と実際  
 〔概要〕教科教育法Ⅰに続き、英語教育を理論と実践の両面から捉え、特に高校英語教育の内容に即して重点的に学ぶ。また、引き続き教員採用試験問題の演習を行う。  
 〔到達目標〕高校英語教育の理論と実践力を身に付ける  
 〔授業計画〕

1 コミュニケーション能力の育成	6～7 授業運営（復習・ウォームアップ・導入）
2 リスニング、スピーキング	8～9 授業運営（展開・まとめ）
3 リーディング・ライティング	10 学習指導案作成
4 ティーム・ティーチング	11～14 模擬授業
5 教科書と教材研究	15 定期試験

〔テキスト〕望月昭彦他『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）、『高等学校学習指導要領解説—外国語編』（開隆堂）、米山朝二他『英語科教育実習ハンドブック』（大修館書店）、中田清一他『PROMINENCE English ①』（東京書籍）  
 〔参考文献〕なし  
 〔授業形態〕講義・演習・実習・討論・AV機器使用  
 〔成績評価の方法〕定期試験60%、出席平常点40%

**50520**

**㊤教科教育法Ⅲ（英語）** S 三好康子

〔授業題目〕中学校英語教育の理論と実際  
 〔概要〕教材の作成、運用方法、指導案の作成の仕方、授業の進め方について、中学校の英語教科書を用いた模擬授業の実践を通じて、中学英語教育の実践を学ぶ。  
 〔到達目標〕小・中の連携を意識した四技能指導の実践を通じて、中学英語教育の指導力を身につけていく。  
 〔授業計画〕

1 中学校学習指導要領	9 指導案の作成（1）
2 中学校学習指導要領と教科書	10 指導案の作成（2）
3 小・中の英語教育の連携について考える	11 リスニング指導の実際と模擬授業
4 ビデオによる授業研究（1）	12 スピーキング指導の実際と模擬授業
5 ビデオによる授業研究（2）	13 リーディング指導の実際と模擬授業
6 教科書研究（1）	14 ライティング指導の実際と模擬授業
7 教科書研究（2）	15 定期試験
8 教材・教具の作成と運用	

〔テキスト〕望月昭彦他『新学習指導要領に基づく英語科教育法』大修館書店、文部科学省編著『中学校学習指導要領解説：外国語編』開隆堂、笠島準一著『NEW HORIZON English Course 1～3』東京書籍  
 〔参考文献〕なし  
 〔授業形態〕講義・演習・発表・討論・AV機器使用、『英語ノート5年生』文部科学省、『英語ノート6年生』文部科学省  
 〔成績評価の方法〕平常点40%、定期試験60%

**50521**

**㊦教科教育法Ⅳ（英語）**

W 三好康子

〔授業題目〕 中高の連携を考えた英語教育

〔概要〕 中学・高校の授業の内容を指導項目毎に分けて、具体的にその方法を学び、模擬授業によって応用力を養う。

〔到達目標〕 中学・高校の連携を考え、各項目毎の指導の実際を考え、英語教育の実践力を身に付ける。

〔授業計画〕

- |            |             |         |
|------------|-------------|---------|
| 1 発音指導     | 6 ライティング指導  | 11 模擬授業 |
| 2 文字指導     | 7 辞書指導と語彙指導 | 12 模擬授業 |
| 3 リスニング指導  | 8 文法指導      | 13 模擬授業 |
| 4 スピーキング指導 | 9 模擬授業      | 14 模擬授業 |
| 5 リーディング指導 | 10 模擬授業     | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 望月昭彦他著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店、文部科学省編著『中学校学習指導要領解説：外国語編』開隆堂、文部科学省編著『高等学校学習指導要領解説：外国語編』開隆堂、米山朝二他著『英語科教育実習ハンドブック』大修館書店、中田清一他著『PROMINENCE English 1』東京書籍、笠島準一他著『NEW HORIZON English Course 1～3』東京書籍

〔参考文献〕 岡秀夫他『英語授業力強化マニュアル』（大修館書店）

〔授業形態〕 講義・演習・実習・討論・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 平常点 50 %、定期試験 50 %

**50522**

**㊦教科教育法Ⅰ（アラビア語）**

S 岡崎英樹

〔概要〕 以下のテキストを用い、語学教育について研究する。受講生はテキスト及び他の文献で調べた事をまとめて発表する。

〔到達目標〕 アラビア語のみならず、広く外国語を教える際に必要となる知識を得ることを目標とする。

〔授業計画〕

- |              |              |             |
|--------------|--------------|-------------|
| 1 英語教育の目的    | 6 英語教育の環境的要因 | 11 言語習得の諸問題 |
| 2 英語教育の目的    | 7 学習者の要因     | 12 言語習得の諸問題 |
| 3 英語の指導目標    | 8 学習者の要因     | 13 発音の指導    |
| 4 英語の指導目標    | 9 教師の役割      | 14 発音の指導    |
| 5 英語教育の環境的要因 | 10 教師の役割     |             |

〔テキスト〕 土屋／広野著『新英語科教育法入門』（研究社出版）

〔参考文献〕 望月昭彦他著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書房）

〔授業形態〕 発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60 %、平常点 40 %

**50523**

**㊦教科教育法Ⅱ（アラビア語）**

W 岡崎英樹

〔概要〕 以下のテキストを用い、語学教育について研究する。受講生はテキスト及び他の文献で調べた事をまとめて発表する。

〔到達目標〕 アラビア語のみならず、広く外国語を教える際に必要となる知識を得ることを目標とする。

〔授業計画〕

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1 文字と綴り字の指導 | 8 リスニングの指導          |
| 2 文字と綴り字の指導 | 9 スピーキングの指導         |
| 3 語彙の指導     | 10 スピーキングの指導        |
| 4 語彙の指導     | 11 リーディング、ライティングの指導 |
| 5 文法の指導     | 12 リーディング、ライティングの指導 |
| 6 文法の指導     | 13 指導法の諸問題          |
| 7 リスニングの指導  | 14 指導法の諸問題          |

〔テキスト〕 土屋／広野著『新英語科教育法入門』（研究社出版）

〔参考文献〕 望月昭彦他著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）

〔授業形態〕 発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60 %、平常点 40 %

**50524**

**㊤教科教育法Ⅲ（アラビア語）**

S 菊池忠純

〔概要〕 文法事項の中で生徒がつまづきそうな部分を考えて共に、参考書を利用してそれを整理して、どのように教材を提示するかを考える。冬学期が実践編とするといわば理論編にあたる。また同時に受講生自身が文法事項を理解するための実践の機会としたい。

〔到達目標〕 受講生自身の英語文法理解を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| 1 教科書全体の構成 (1) | 6 文法・文型の導入 (2) | 11 本文の読解指導 (2) |
| 2 教科書全体の構成 (2) | 7 練習と発展活動 (1)  | 12 本文の読解指導 (3) |
| 3 単元の教材研究 (1)  | 8 練習と発展活動 (2)  | 13 本文の読解指導 (4) |
| 4 単元の教材研究 (2)  | 9 練習と発展活動 (3)  | 14 受講生の発表      |
| 5 文法・文型の導入 (1) | 10 本文の読解指導 (1) |                |

〔テキスト〕 米山朝二他著『改訂版英語科教育実習ハンドブック』（大修館書店）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・発表・対話・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 レポート 50%、発表 30%、平常点 20%

**50525**

**㊤教科教育法Ⅳ（アラビア語）**

W 菊池忠純

〔概要〕 テキストを用いて指導法について研究する。英語の読解力を養うために受講者は毎回全員発表しなければならない。また具体的に授業を組み立てるために何が必要かを、模擬授業とその後の討論により確認する。辞書を始め参考図書を積極的に利用して欲しい。

〔到達目標〕 授業においていつかに自分の考えていることを適切な言葉で伝えることができるのかの実践の場にしたがいたい。

〔授業計画〕

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1 目標と内容 (1)    | 8 授業の展開 (1) 受講者の模擬授業  |
| 2 目標と内容 (2)    | 9 授業の展開 (2)           |
| 3 目標と内容 (3)    | 10 授業の展開 (3) 受講者の模擬授業 |
| 4 授業計画 (1)     | 11 授業の展開 (4)          |
| 5 授業計画 (2)     | 12 評価 (1)             |
| 6 指導計画案の作成 (1) | 13 評価 (2)             |
| 7 指導計画案の作成 (2) | 14 まとめ                |

〔テキスト〕 米山朝二他著『改訂版英語科教育実習ハンドブック』（大修館書店）、プリント

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・発表・対話・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 レポート 50%、発表 30%、平常点 20%

**50526**

**㊤教科教育法Ⅰ（宗教）**

S 藤谷厚生

〔授業題目〕 宗教教育史研究

〔概要〕 宗教教育は、専ら私学教育でのみ行われるものであり、その私学が拠る所の宗教の教義や宗旨によって些かながらも特異性をおびてくるものである。本講では、我国における宗教教育の歴史の変遷とその特色を学びながら、私学における宗教教育の意義とその実践的手法を学ぶ。

〔到達目標〕 宗教教育の歴史の変遷の基礎的理解、さらに現場における教授法の基礎習熟を目標とする。

〔授業計画〕

- |                |                  |                  |
|----------------|------------------|------------------|
| 1 宗教と教育        | 6 我国の宗教教育史 (3)   | 11 実習 (1)        |
| 2 宗教教育の目的と方法   | 7 宗教教育の意義        | 12 教材研究と教案作成 (2) |
| 3 西洋の宗教教育史     | 8 指導計画の立て方       | 13 実習 (2)        |
| 4 我国の宗教教育史 (1) | 9 教材研究           | 14 教材研究と教案作成 (3) |
| 5 我国の宗教教育史 (2) | 10 教材研究と教案作成 (1) |                  |

〔テキスト〕 斎藤昭俊著『宗教科教育法』（国書刊行会）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常点等 40%

50527

㊦教科教育法Ⅱ（宗教）

W 藤谷厚生

〔授業題目〕 宗教教育の意義と実践

〔概要〕 憲法や教育基本法、また学習指導要領などの法的位置づけを通して、宗教教育のあるべき姿を考えたい。また、宗教教育の現状における問題点などもあげ、より具体的な教育現場に即応した教育方法にも言及したい。

〔到達目標〕 宗教教育の法的根拠、その意義の基本的理解、さらに現場における教授法の基礎習熟を目標とする。

〔授業計画〕

- |                |                |                 |
|----------------|----------------|-----------------|
| 1 宗教教育の意義      | 6 宗教教育の指導と評価   | 11 教材研究と教案作成（3） |
| 2 法的位置づけ（1）    | 7 教材研究と教案作成（1） | 12 実習（3）        |
| 3 法的位置づけ（2）    | 8 実習（1）        | 13 教材研究と教案作成（4） |
| 4 教育現場での問題点（1） | 9 教材研究と教案作成（2） | 14 実習（4）        |
| 5 教育現場での問題点（2） | 10 実習（2）       |                 |

〔テキスト〕 斎藤昭俊著『宗教科教育法』（国書刊行会）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常点等 40%

50528

㊦教科教育法Ⅲ（宗教）

S 兼子恵順

〔概要〕 「学習指導要領」を基軸として、中学校における教科「宗教」の目標・内容及び範囲・近隣教科との関連等の問題を考え、併せて指導計画の作成、教材研究、授業の展開と評価についての実際を体験的に学ぶ。

〔到達目標〕 教科「宗教」の目的・内容・範囲についての理解、教材研究および指導計画の作成と授業の実施。

〔授業計画〕

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1 学習指導要領に基づく教科「宗教」の目標   | 8 指導計画の作成と教材研究（4）  |
| 2 教科「宗教」の内容及び範囲         | 9 指導計画の作成と教材研究（5）  |
| 3 教科「宗教」の内容及び範囲の取り扱い（1） | 10 教科「宗教」の展開と評価（1） |
| 4 教科「宗教」の内容及び範囲の取り扱い（2） | 11 教科「宗教」の展開と評価（2） |
| 5 指導計画の作成と教材研究（1）       | 12 教科「宗教」の展開と評価（3） |
| 6 指導計画の作成と教材研究（2）       | 13 教科「宗教」の展開と評価（4） |
| 7 指導計画の作成と教材研究（3）       | 14 教科「宗教」の展開と評価（5） |

〔テキスト〕 配布資料

〔参考文献〕 水野弘元著『仏教の基礎知識』（春秋社）

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート（40%）、平常点（60%）

50529

㊦教科教育法Ⅳ（宗教）

W 兼子恵順

〔概要〕 「学習指導要領」を基軸として、中学校における教科「宗教」の目標・内容及び範囲・近隣教科との関連等の問題を考え、併せて指導計画の作成、教材研究、授業の展開と評価についての実際を体験的に学ぶ。

〔到達目標〕 教科「宗教」の目的・内容・範囲についての理解、教材研究および指導計画の作成と授業の実施。

〔授業計画〕

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 指導計画の作成と教材研究（1） | 8 教科「宗教」の展開と評価（3）  |
| 2 指導計画の作成と教材研究（2） | 9 教科「宗教」の展開と評価（4）  |
| 3 指導計画の作成と教材研究（3） | 10 教科「宗教」の展開と評価（5） |
| 4 指導計画の作成と教材研究（4） | 11 教科「宗教」の展開と評価（6） |
| 5 指導計画の作成と教材研究（5） | 12 教科「宗教」の展開と評価（7） |
| 6 教科「宗教」の展開と評価（1） | 13 教科「宗教」の展開と評価（8） |
| 7 教科「宗教」の展開と評価（2） | 14 教科「宗教」の展開と評価（9） |

〔テキスト〕 配布資料

〔参考文献〕 水野弘元著『仏教の基礎知識』（春秋社）

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート（40%）、平常点（60%）

**50530**

⑩社会教科教育法Ⅰ

S 谷本哲郎

〔授業題目〕 中学校の社会科教育

〔概要〕 中学校社会科教育の目標と内容構成を確認し、その取り扱いを考察する。併せて、中学校社会科の指導法を研究する。

〔到達目標〕 中学校社会科の各分野の目標及び内容を理解し、それぞれの主題に応じた指導案が作成できる。

〔授業計画〕

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 オリエンテーション (全体構想) | 9 学習指導案の作り方  |
| 2 社会科の教員免許制度       | 10 テーマ別研究発表① |
| 3 社会科教育の流れ         | 11 テーマ別研究発表② |
| 4 地理的分野の目標と内容構成    | 12 テーマ別研究発表③ |
| 5 歴史的分野の目標と内容構成    | 13 テーマ別研究発表④ |
| 6 公民的分野の目標と内容構成    | 14 テーマ別研究発表⑤ |
| 7 社会科指導法について1      | 15 定期試験      |
| 8 社会科指導法について2      |              |

〔テキスト〕 文部省編 『中学校学習指導要領解説 社会編』 (大阪書籍) 教科書 『中学社会 地理的分野・歴史的分野・公民的分野』 (大阪書籍)

〔参考文献〕 授業中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、発表等平常点 40 %

**50531**

⑩社会教科教育法Ⅱ

W 谷本哲郎

〔授業題目〕 中学校の社会科教育

〔概要〕 地理・歴史・公民の各分野について、教材の研究を進めながら、学習指導案を作成し、模擬授業実施後の反省・討論を通して実践学習を深める。

〔到達目標〕 中学校社会科の各分野の模擬授業によって、教材の準備、指導案の作成、授業の進め方等が上達する。

〔授業計画〕

- |                 |              |               |
|-----------------|--------------|---------------|
| 1 オリエンテーション ( ) | 6 歴史分野の教材研究  | 11 公民分野の模擬授業① |
| 2 地理分野の教材研究     | 7 歴史分野の模擬授業① | 12 公民分野の模擬授業② |
| 3 地理分野模擬授業①     | 8 歴史分野の模擬授業② | 13 公民分野の模擬授業③ |
| 4 地理分野模擬授業②     | 9 歴史分野の模擬授業③ | 14 模擬授業反省会    |
| 5 地理分野模擬授業③     | 10 公民分野の教材研究 |               |

〔テキスト〕 文部省編 『中学校学習指導要領解説 社会編』 (大阪書籍) 教科書 『中学社会 地理的分野・歴史的分野・公民的分野』 (大阪書籍)

〔参考文献〕 授業中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 模擬授業 60 %、発表等平常点 40 %

**50532**

⑩社会地理歴史教科教育法

S 梅原隆治

〔授業題目〕 中学社会科教育法

〔概要〕 まず戦後の社会科教育の流れを概観し、現行の中学学習指導要領を通してそれぞれの目標や内容を把握する。それらをふまえ、教案を作成し模擬授業を行うなどの実践学習をする。

〔到達目標〕 質の高い指導案を作成し、満足のゆく模擬授業を行う。その過程で、教材・教具についても修得する。

〔授業計画〕

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション       | 9 地理的分野の教科指導案の作成例  |
| 2 社会科教育の変遷        | 10 歴史的分野の教科指導案の作成例 |
| 3 地理的分野の目標と内容     | 11 地理的分野の模擬授業Ⅰ     |
| 4 歴史的分野の目標と内容     | 12 歴史的分野の模擬授業Ⅰ     |
| 5 地理的分野の年間指導計画    | 13 地理的分野の模擬授業Ⅱ     |
| 6 歴史的分野の年間指導計画    | 14 歴史的分野の模擬授業Ⅱ     |
| 7 地理的分野の教材・教具の活用例 | 15 総括と小テスト         |
| 8 歴史的分野の教材・教具の活用例 |                    |

〔テキスト〕 文部科学省編 『中学校学習指導要領解説 社会編』 (大阪書籍) 教科書 『中学社会 地理的分野・歴史的分野』 (大阪書籍)

〔参考文献〕 『中学社会諸教科教育法』 (学芸図書)、 『地理教育カリキュラムの創造』 (古今書院)

〔授業形態〕 講義・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる小テスト 50 %、模擬授業 30 %、平常点 20 %

**50533**

⑩**地理歴史教科教育法**

W 梅原隆治

〔授業題目〕 高校地歴科教育法

〔概要〕 戦後の高校社会科教育の変遷をふまえ、新高等学校学習指導要領の「世界史」・「日本史」および「地理」の目標および内容について講義する。さらに模擬授業を通して指導法や指導案作成を学ぶ。

〔到達目標〕 質の高い指導案を作成し、満足のゆく模擬授業を行う。その過程で、教材・教具についても修得する。

〔授業計画〕

- |                |                 |                |
|----------------|-----------------|----------------|
| 1 オリエンテーション    | 史)              | 11 地理の模擬授業 I   |
| 2 教育課程の概要      | 7 学習指導案の作成 (日本  | 12 世界史の模擬授業 II |
| 3 世界史の学習指導要領   | 史)              | 13 日本史の模擬授業 II |
| 4 日本史の学習指導要領   | 8 学習指導案の作成 (地理) | 14 地理の模擬授業 II  |
| 5 地理の学習指導要領    | 9 世界史の模擬授業 I    | 15 総括と小テスト     |
| 6 学習指導案の作成 (世界 | 10 日本史の模擬授業 I   |                |

〔テキスト〕 文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 地歴科編』(財務省印刷局)教科書『詳説 日本史』(山川出版社)他

〔参考文献〕 『地理教育カリキュラムの創造』(古今書院)、『中等社会諸教科教育法』(学芸図書)

〔授業形態〕 講義・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる小テスト 50%、模擬授業 30%、平常点 20%

**50534**

⑩**社会公民教科教育法**

S 川内眷三

〔授業題目〕 中学社会公民教科教育法と教案作成の習熟

〔概要〕 中学校社会科の成立過程をふまえ、中学校学習指導要領の公民的分野の目標・内容を理解するとともに、『中学校社会公民的分野』の教科書を使用し、方法・教え方の諸課題をとらえる。

〔到達目標〕 グループ編成によって、教科法の基本に通ずる学習指導計画案の作成の習熟に努め、模擬授業での実践を通して授業展開の厳しさについて認識を深める。

〔授業計画〕

- |                                |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 中学校社会科教育と公民                  | 8 経済分野の教え方、現代の国際社会の教え方 |
| 2 中学校学習指導要領社会科公民分野の理解 (1)      | 9 模擬授業展開の留意点           |
| 3 中学校学習指導要領社会科公民分野の理解 (2)      | 10 模擬授業 (1)            |
| 4 授業展開の計画表作成                   | 11 模擬授業 (2)            |
| 5 授業計画と学習指導計画案の作成 (1)          | 12 模擬授業 (3)            |
| 6 授業計画と学習指導計画案の作成 (2)          | 13 模擬授業 (4)            |
| 7 現代社会と生活分野の教え方、日本国憲法と民主政治の教え方 | 14 模擬授業 (5)・総括         |

〔テキスト〕 中学校社会科用教科書『中学校社会公民的分野』(日本文教出版)

〔参考文献〕 文部科学省編『中学校学習指導要領解説社会編』(日本文教出版)

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 レポート・課題 50%、発表等平常点 50%

**50535**

⑩**公民教科教育法**

W 川内眷三

〔授業題目〕 高校公民教科教育法と教案作成の習熟

〔概要〕 高等学校社会科の歴史背景をもとに高等学校公民科として成立した経緯をふまえ、学習指導要領での公民科の目標を理解する。現代社会の教科書の内容理解とともに、学習指導計画案の作成に関わるなかで、教科指導方法の一端を体得する。

〔到達目標〕 学習指導計画案の作成の習熟に努め、模擬授業を通して高等学校公民科に対する教科指導の実践の厳しさを認識する。

〔授業計画〕

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 社会科教育と高等学校公民科の成立     | 8 倫理の内容と教え方    |
| 2 高等学校学習指導要領公民科の理解 (1) | 9 政治・経済の内容と教え方 |
| 3 高等学校学習指導要領公民科の理解 (2) | 10 模擬授業 (1)    |
| 4 授業計画のたて方             | 11 模擬授業 (2)    |
| 5 学習指導計画案の作成 (1)       | 12 模擬授業 (3)    |
| 6 学習指導計画案の作成 (2)       | 13 模擬授業 (4)    |
| 7 現代社会の内容と教え方          | 14 模擬授業 (5)・総括 |

〔テキスト〕 高等学校公民科用教科書『高校現代社会』(実教出版)

〔参考文献〕 文部科学省編『高等学校学習指導要領解説公民科編』(財務省印刷局)

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 レポート・課題 50%、発表等平常点 50%

**50536**

**㊦教科教育法Ⅰ（福祉）**

S 上續宏道

〔授業題目〕福祉科教育の基礎的能力の育成

〔概要〕高等学校における「福祉」教育の理念について理解し、「福祉」を指導していくにあたり、基礎となる分野の確認を行い、各分野の目標、内容、方法などを体系的に学修する。

〔到達目標〕ケアサービスの技術や知識を正しく伝授できる能力を養成し、教育現場に必要な教育力、指導力を身につけさせる。

〔授業計画〕

- |                |                |              |
|----------------|----------------|--------------|
| 1 「福祉」教育の理念    | 6 社会福祉制度のポイント② | 11 指導計画案の作成① |
| 2 学習指導要領の基本的理解 | 7 援助技術のポイント①   | 12 指導計画案の作成② |
| 3 社会福祉基礎①      | 8 援助技術のポイント②   | 13 指導計画案の作成③ |
| 4 社会福祉基礎②      | 9 介護概論のポイント①   | 14 指導計画案の作成④ |
| 5 社会福祉制度のポイント① | 10 介護概論のポイント②  |              |

〔テキスト〕文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 福祉編』実教出版

〔参考文献〕西尾祐吾・上續宏道著『福祉教育の課題』（晃洋書房）

〔授業形態〕講義・演習・発表・ビデオ

〔成績評価の方法〕レポート 50%、発表・小テスト等 30%、平常点 20%

**50537**

**㊦教科教育法Ⅱ（福祉）**

W 上續宏道

〔授業題目〕福祉科教育の応用的能力の育成

〔概要〕Ⅰを基礎とし、福祉の理念や制度の基本的知識の理解を促すことと共に、それらを実践の場で積極的に生かす能力を養成し、導き出す指導方法について学修する。

〔到達目標〕ケアサービスの技術や知識を正しく伝授できる能力を養成し、教育現場に必要な教育力、指導力を身につけさせる。

〔授業計画〕

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 実習指導のポイント①     | 8 社会福祉情報活用のポイント② |
| 2 実習指導のポイント②     | 9 社会福祉教材研究①      |
| 3 実習指導のポイント③     | 10 社会福祉教材研究②     |
| 4 演習指導のポイント①     | 11 指導計画案の作成①     |
| 5 演習指導のポイント②     | 12 指導計画案の作成②     |
| 6 演習指導のポイント③     | 13 指導計画案の作成③     |
| 7 社会福祉情報活用のポイント① | 14 計画案の検討・指導     |

〔テキスト〕文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 福祉編』実教出版

〔参考文献〕西尾祐吾・上續宏道著『福祉教育の課題』（晃洋書房）

〔授業形態〕講義・演習・発表・ビデオ

〔成績評価の方法〕レポート 50%、発表・小テスト等 30%、平常点 20%

**50546**

**㊦教育実習指導（宗教）**

S 藤谷厚生

**㊦教育実習Ⅰ（宗教）**

**㊦教育実習Ⅱ（宗教）**

〔授業題目〕教育実習の意義とその実践

〔教育実習〕授業実習は、指導教員の年間指導計画に沿って行われるため、その計画の意図に留意した教材研究や学習指導など、より周到的な準備と慎重な態度が求められる。

〔到達目標〕教育実習の意義・目的・内容と方法・課題についての理解。

〔授業計画〕

- |                 |               |               |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1 教育実習の意義と目的    | 6 教育実習の課題（2）  | 11 教育実習の課題（7） |
| 2 教育実習の内容と方法（1） | 7 教育実習の課題（3）  | 12 教育実習の評価（1） |
| 3 教育実習の内容と方法（2） | 8 教育実習の課題（4）  | 13 教育実習の評価（2） |
| 4 教育実習の内容と方法（3） | 9 教育実習の課題（5）  | 14 教育実習の評価（3） |
| 5 教育実習の課題（1）    | 10 教育実習の課題（6） | 15 教育実習の評価（4） |

〔テキスト〕

〔参考文献〕斎藤昭俊著『宗教科教育法』（国書刊行会）

〔授業形態〕講義・演習・実習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート（60%）、平常の成績（40%）

**50546**

⑩教育実習指導（国語）

S 源健一郎

⑩教育実習Ⅰ（国語）

⑩教育実習Ⅱ（国語）

〔授業題目〕 教育実習への準備と報告

〔概要〕 教育実習が、実習生とその授業を受ける生徒にとって有意義なものとなるように、議論を深めてゆきたい。実習後は、各自の報告と相互批評の実践を行う。

〔到達目標〕 教育実習への心構えの確認、実習後の自己評価の確立。

〔授業計画〕

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1 自己紹介をしてみよう         | 9 個別相談       |
| 2 教育実習の意義Ⅰ           | 10 個別相談      |
| 3 教育実習の意義Ⅰ（ディスカッション） | 11 教育実習実践報告Ⅰ |
| 4 教育実習の意義Ⅱ           | 12 教育実習実践報告Ⅱ |
| 5 教育実習の意義Ⅱ（ディスカッション） | 13 教育実習実践報告Ⅲ |
| 6 教育実習の実際            | 14 教育実習実践報告Ⅳ |
| 7 模擬授業の実践Ⅰ           | 15 教育実習実践報告Ⅴ |
| 8 模擬授業の実践Ⅱ           |              |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 実習 60 %、小レポート 30 %、平常点 10 %

**50546**

⑩教育実習指導（公民）

S 川内眷三

⑩教育実習Ⅱ（公民）

〔授業題目〕 高校公民科教育実習の基本と実践

〔概要〕 教育実習は教職を志すものにとって貴重な経験を積むことになる。教育実習の心がまえとともに、実習校との打ち合わせのなかで授業展開の学習指導計画案を作成し、模擬授業を実施して実習への再点検をおこなう。

〔到達目標〕 高等学校公民科の教科指導にとどまらず、生徒指導上の留意点について再喚起し、教職に対する姿勢の涵養に努める。

〔授業計画〕

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1 教育実習の意義       | 8 模擬授業（2）            |
| 2 教育実習の心がまえ     | 9 模擬授業（3）            |
| 3 公民科教科指導の留意点   | 10 教育実習の展開（1）        |
| 4 授業観察と研究授業の留意点 | 11 教育実習の展開（2）        |
| 5 生徒指導の留意点      | 12 教育実習の発表・評価（1）     |
| 6 学習指導計画案の作成    | 13 教育実習の発表・評価（2）     |
| 7 模擬授業（1）       | 14 教育実習の成果をふまえ今後への展望 |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布。

〔参考文献〕 文部科学省編『高等学校学習指導要領解説公民科編』（財務省印刷局）

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 実習評価 50 %、レポート・課題・発表等平常点 50 %

**50546**

⑩教育実習指導（地理歴史）

S 梅原隆治

⑩教育実習Ⅱ（地理歴史）

〔授業題目〕 高校地歴科の教育実習

〔概要〕 教育実習の意義・目的を理解し、教育実習への基本的な心構えを養うとともに、教科指導案を作成し、模擬授業をおこなう。教材・教具（OHP・OHC・デジタル教材など）の習熟も目指す。

〔到達目標〕 本番を踏まえた教科指導案を作成し、質の高い模擬授業をおこなう。教材・教具（OHP・OHC・デジタル教材など）も習熟する。

〔授業計画〕

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 教科指導案の作成（世界史）  |
| 2 教育実習の意義   | 10 教科指導案の作成（日本史） |
| 3 教育実習の目的   | 11 教科指導案の作成（地理）  |
| 4 教育実習の内容   | 12 模擬授業（世界史）     |
| 5 何を観察するか   | 13 模擬授業（日本史）     |
| 6 何に参加するか   | 14 模擬授業（地理）      |
| 7 教材の種類と活用  | 15 教育実習の反省と総括    |
| 8 教具の種類と活用  |                  |

〔テキスト〕 教務より配布の『教育実習記録』、実習校指定教科書を持参のこと

〔参考文献〕 文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 地歴科編』、『地理教育カリキュラムの創造』（古今書院）

〔授業形態〕 講義・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる小テスト 50 %、実習内容 30 %、平常点 20 %

50546

㊦教育実習指導（福祉）

S 上續宏道

㊦教育実習Ⅱ（福祉）

〔授業題目〕教育実習を通じた指導力の育成

〔概要〕教育実習にのぞむにあたっての基本的な心構えや、教科指導に必要な知識・技能習得の為の模擬授業の実施等を授業内容として組み入れ、実習への再点検、能力の向上を図る。

〔到達目標〕教育実習に意欲的に取り組み、教科指導にとどまらず、生徒指導上の留意点について再喚起し、教職に求められる姿勢を涵養する。

〔授業計画〕

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1 教育実習の意義       | 8 模擬授業（2）             |
| 2 教育実習の心構え      | 9 模擬授業（3）             |
| 3 教科指導の留意点      | 10 教育実習の展開（1）         |
| 4 授業観察と研究授業の留意点 | 11 教育実習の展開（2）         |
| 5 生徒指導の留意点      | 12 教育実習の発表・評価（1）      |
| 6 学習指導計画案の作成    | 13 教育実習の発表・評価（2）      |
| 7 模擬授業（1）       | 14 教育実習の成果をふまえた今後への展望 |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 福祉編』 実教出版

〔授業形態〕講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕実習評価、レポート・課題、発表等平常点 100 %

50546

㊦教育実習指導（社会）

S 谷本哲郎

㊦教育実習Ⅰ（社会）

〔授業題目〕中学校社会科の教育実習

〔概要〕教育実習についての理解を深め、体験することへの心構えを固める。実習の実際的な取り扱い方や心得を確かなものにする。

〔到達目標〕教育実習に対する不安を取りのぞき、意欲をもって取り組むことが出来る。

〔授業計画〕

- |                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 魅力ある優れた教員とは   | 6 教師と生徒の人間関係    | 10（教育実習）        |
| 2 教育実習の意義と目標    | 7 実習記録の書き方と取り扱い | 11（教育実習）        |
| 3 ビデオ「教育実習生の授業」 | い               | 12 教育実習の反省      |
| 4 教育実習の内容と方法    | 8 教育実習直前の注意     | 13 教育実習評価の意義と目的 |
| 5 教師の職務と役割      | 9（教育実習）         | 14 教員としての心構え    |

〔テキスト〕プリント資料

〔参考文献〕授業中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義・実習・発表・対話

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、平常点 40 %

50546

㊦教育実習指導（英語）

S 三好康子

㊦教育実習Ⅰ（英語）

㊦教育実習Ⅱ（英語）

〔授業題目〕 教育実習

〔概要〕 教育実習の事前指導として、モデル授業、教材研究、指導案の作成を学び、模擬授業を行う。模擬授業の実践を通じて能力の向上を図る。実習後は反省を行い将来に備える。

〔到達目標〕 学校全体の教育活動を理解し、教員の職務全体について把握する。その上で、最重要の目標である実践力を形成する。

〔授業計画〕

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 学校全体の教育活動（中学校・高校） | 9 教育実習の反省と報告会     |
| 2 モデル授業研究（中学校）      | 10 教育実習に関するレポート作成 |
| 3 モデル授業研究（高校）       | 11 レポートに基づく反省会    |
| 4 模擬授業（1）           | 12 教員採用試験問題演習     |
| 5 模擬授業（2）           | 13 同 上            |
| 6 模擬授業（3）           | 14 同 上            |
| 7 実習期間のため休み         | 15 同 上            |
| 8 実習期間のため休み         |                   |

〔テキスト〕 米山朝二他著 『英語科教育実習ハンドブック』 大修館書店、『教育実習の常識』 蒼丘書林、文部科学省編著 『中学校学習指導要領解説』 東京書籍

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習・実習・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 平常点 40 %、レポート 60 %

50546

㊦教育実習指導（書道）

S 中川寿郎

㊦教育実習Ⅱ（書道）

〔授業題目〕 教育実習指導（書道）

〔概要〕 教育実習に際しての基本的な心構えや、実習校における実習生活の実際的な諸注意を与えて、それぞれ身につけた書道の力と、教科教育法で学んだ指導法を十分に発揮できるよう指導を行う。

〔到達目標〕 担当の指導教官とよく連絡をとり、その指導方針や指示に従って、実習の成果を挙げる努力をさせる。

〔授業計画〕

- |               |                |                |
|---------------|----------------|----------------|
| 1 教育実習の意義     | 5～8 学習指導案の相互検討 | 13 教育実習の反省と問題点 |
| 2 教育実習（書道）の内容 | 9～10 教育実習      | 14 教育実習の評価     |
| 3 教育実習生としての心得 | 11 教育実習で感得したこと | 15 “           |
| 4 学習指導案作成の手順  | 12 教育実習記録について  |                |

〔テキスト〕 村上 三島他著 『高校書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』（大阪書籍）

〔参考文献〕 プリント配布

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点 40 %